

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

中国出張でのビックリ！？トラブル

JSC 貿易部ニュース 中国編

みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。暦の上では秋が近づいてきたとはいえ、連日全国で最高気温や猛暑日の日数が更新されるなど厳しい暑さが続いております。

そんな中ではございますが、今月は7月に行った中国出張の報告から。今回は久しぶりに関西国際空港から廈門のルートではなく、福州に入る行程で移動しました。福州といえば、約30年間日本と取引をしている有名な現地企業がございます。

石の会社？ではなく、「うなぎの養殖」を行っている会社ですが、その会社は中国の養殖ウナギ大手で、かれこれ約30年間、日本に養殖ウナギを供給しています。

「そういえば石材工場に視察に行く途中、ウナギの養殖池を見たことがあるよ」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

実はこの会社、海外から仕入れた稚魚の養殖から、加工までを一貫して行っており、さらに販路を広げるため、今年1月には日本法人を設立したとのこと。

そう言えば、日本では前より「土用の丑」の宣伝を多く目にするようになった気がしますし、牛丼屋さんやファミリーレストランなどでも「うな丼」「うな重」を出すところが増えてきているような。日本はウナギ好きな食文化ですが、さらに需要が増えてきているのかもしれないですね。

皆さんも福建省産のウナギを試しに食してみたいはいかがでしょうか？

話が脱線しましたが、出張初日の移動日に、タイトルにもしましたトラブルに巻き込まれました。福州に到着した私は入国審査をさっと済ませて預けた荷物を待つこと数分。

しかし、私の荷物だけなかなか出てきません。どれほどの時間待ったことか、ようやく出てきた自分のスーツケースが、謎の黄色いテープでぐるぐる巻きにされている光景を見てビックリしながらも、どんな形でも出てきた安心感から「やっと出てきた～」と笑顔でピックアップ。しかし、喜びも束の間。謎の黄色いグルグル巻きテープを剥がそうとすると、空港職員が飛んできて「それを剥がすな！！」と怒鳴られたのです。

私のこと？と驚きながらよくよく黄色のテープをよく見ると、「中国税関」の文字が…

「どうしよう…」とドキドキしながらスーツケースを引きながら出口に向かいますが、案の定、別室へ連れていかれ公安の荷物検査と取り調べが始まりました。

この時点で、心臓バクバクです。スーツケースの中身はほとんどが着替えと厦門事務所に渡す書類等で怪しいものは入っていませんが、公安職員は迷いもなくスーツケースの内ポケットを勢いよくあけ中の物を取り出しました。

職員二人が顔を見合わせ、「これだ！」と叫びながら取り出したものは、職場のルールを書いた小冊子。ただの薄い小冊子3~4冊の束ですが、その冊子の内容を厳しく問いただされました。職場でのルールを冊子にしたものなので、書いてあることを何ページか読んで説明し、何とか許してもらいました。

理由を聞きましたが、どうやら最近「本」や「書物」が厳しく取り締まられているようで、「次からは”本や書物”は持って来ないように」との厳重注意を受け、ようやく解放されたのでした。

最近の中国税関では、入国の際に持ち込む荷物以外にも、日本から航空便で送る石材サンプルなども厳しくチェックされています。追加関税の請求を受けたり、荷物の受け取りを拒否されるケースも増えてきているので、出張に行く人に書類や荷物を頼むことが増えていたのですが、入国・出国に関わらず、以前よりもチェックがかなり厳しくなっているため注意が必要です。

また、中国の社会状況ですが、日本のニュースでも見聞きするように、中国経済も悪い状況が続いています。大手企業への就職を目指している大学生などは、あえて留年をしたり、大学院に行って就職を先延ばししたりするそうで、景気の悪さや生活の不満から目を逸らすことが難しくなっているところもあるようです。

でも不満抑えるための監視強化や管理強化の煽りを受けるのはご勘弁をという感じです。

日本も中国もなかなか大変な世の中になってきていますね。

今月の石種情報

最近の中国工場の状況ですが、特に崇武の墓石工場では暇な状況が続いています。

墓石工場は、日本の新規建墓減少の影響がストレートに出ている感じがします。

石井地区の外柵工場も注文は少ない状況ですが、それなりに仕事もあつたりして、工場によっては忙しくしているところもあります。リフォーム工事で外柵の注文が多少あるのと永代供養墓関連の製品生産が影響しているのかもしれませんが。

相変わらず「OW-1」の問い合わせや注文が多いのですが、最近「ピンク系」の石の問い合わせも急増しています。

今回はメジャーどころも含め、最近の中国産さくら御影を軽くご紹介していきます。

ただし、皆様ご承知の通り、ピンク系の石種は生産工場や、原石の個体差などによって製品の色目合いが変わって来たりします。現物サンプルによる事前確認が一番確実ですが、郵送に時間が掛かるケースも増えてきているので、時間のないときはメールやチャットツールなどで写真を送り、希望の色目合いで作ることができるか都度確認するといった事前対策などがトラブル防止には効果的です。

① G 6 6 3 (本丁場石)

目が細かく、ピンク色の強い本丁場のG 6 6 3ピンクです。

弊社ではまだ手配可能です。ただし、原石在庫の少ない工場も出てきておりますので事前確認をお願いいたします。

ちなみに、某協力工場の原石在庫量は 55 m³、長尺は 11 尺まで対応可能、天板などは縦横最大寸法は 7.5×6.2 尺くらいまでが対応可能です。



研磨面



原石表面



② G 6 1 7 (新 6 6 3)

オリジナル「G 6 6 3」に比べると色も薄く石目も粗くなりますが、少し安いので最近ご注文が増えてきています。

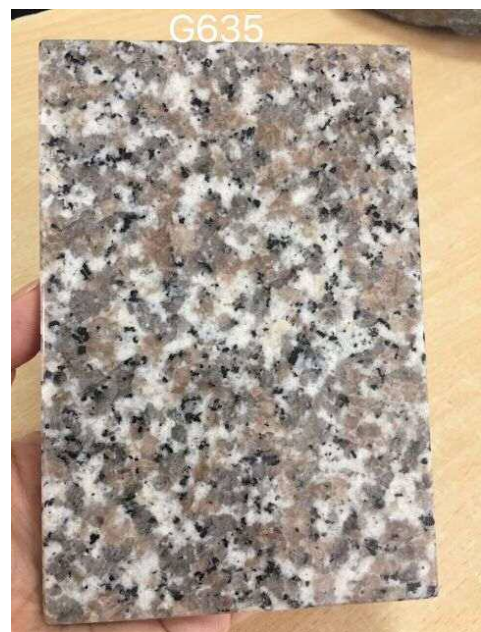
こちら、某協力工場の原石在庫量は 17 m³、長尺は 10 尺まで対応可能、天板の場合は最大 6×4 尺くらいまで対応可能です。「G 6 1 7」は数種類あり、それぞれによって色違いや石目の粗さの違いが大きいのが注意点です。あらかじめ、ご希望の色や石目の”粗い・細かい”を担当営業とお打ち合わせいただくと工場も対応しやすいと思います。



③ 6 3 5 安溪

他の中国産ピンクより石目が粗くなりますが、色は濃いものもあり、なにより価格面で人気のあるピンク石種になっています。

こちら某協力工場の原石在庫量は 24 m³、長尺は 9 尺まで対応可能、天板の場合は最大 7×5 尺まで対応可能です。



④ インド八重桜

こちらは、まだ問い合わせの件数こそ多くないですが、トピックとしてご紹介させていただきます。

こちら某協力工場の原石在庫量は 18 m³、長尺は 10 尺まで対応可能、天板の場合は最大 6.6×6.5 尺まで対応可能です。



合計 4 種類、いま注文の多い中国産さくら御影を特集させていただきました。

最近では洋墓だけでなく永代供養墓や樹木葬外柵などにも多く用いられる中国産の桜御影。ご興味がございましたらお気軽にお問い合わせをお待ちしております。

今月のメルマガは以上になりますが、秋の足音もまだまだ遠そうです。毎日厳しい暑さが続きますが、体調をくずされませぬようご自愛くださいませ。

それではまた来月よろしくお願いたします。

2025/08/01